

新しん 緑みどり ニュー ス



さんきかい よこはましんみどりそうごうびょういん

病院の理念

確かな医療技術
やさしい対応
地域への貢献

医療法人社団 三喜会 横浜新緑総合病院

〒226-0025 横浜市緑区十日市場町1726-7
TEL. 045-984-2400 (代表) FAX. 045-983-4271
発行 地域医療連携室 TEL.045-984-6216 (直通)



「治す」を目指して、もっと知ってほしい～増え続けている大腸がんのこと～

副院長 消化器センター長 外科・消化器外科部長 齊藤 修治

日本人に最も多いがんは、大腸がんです。大腸がんは、早期に発見すれば完治の可能性が高い病気です。今回は、日本における大腸がんの現状と、大腸がんで命を落とさないために重要な「早期発見」についてお話しします。

日本では、がんは長年、死亡原因の第1位となっています。2023年には、全死亡者の約4人に1人ががんで亡くなりました。しかし、年齢構成を調整した死亡率を見ると、がんによる死亡者は減少傾向にあり、その中でも大腸がんの死亡率は近年、減少しています。

それでも、大腸がんと診断される患者数は増加しており、日本人に最も多いがんとなっています。特に、上皮内癌という非常に早期の大腸がんを含めた統計では、男性では最も多いがんが大腸がんであり、8人に1人が生涯で大腸がんにかかる計算になります。女性では、乳がんに次いで2番目に多く、11人に1人は大腸がんにかかるとされています。(図1)

約7%が50歳未満です。(図2)

大腸がんの初期段階では、自覚症状がほとんどありません。そのため、早期発見には定期的な検査が欠かせません。住民検診や会社検診で行われる便潜血検査(便に混ざるわずかな血液を検出する検査)は、大腸がんの死亡率を低下させる効果が証明されています。2日間の便潜血検査では、進行がんの約85%、早期がんの約70%を発見できます。もし、便潜血検査で2回のうち1回でも陽性であれば、必ず大腸内視鏡検査を受けて下さい。便潜血検査で発見された大腸がん患者の90%以上は、適切な治療を受けることで完治できます。ただし、便潜血検査は100%の精度ではないため、40歳以上の方は毎年検査を受けることが推奨されています。



また、人間ドックなどで行われる大腸内視鏡検査も、大腸がんの死亡率を低下させる効果があり、がんになる前のポリープ(腺腫)を発見して切除することもできます。特に、大腸がんのリスクが高い人(家族に大腸がん患者がいる、過去に大腸がんの治療を受けた、大腸ポリープ(腺腫)が見つかったことがあるなど)は、便潜血検査が陰性でも、3～5年ごとに大腸内視鏡検査を受けることをお勧めします。

当院の人間ドック・検診では、ご希望に応じて鎮静剤を使用した大腸内視鏡検査を受けることができ、消化器内視鏡専門医が検査を担当します。

毎年の便潜血検査と、数年ごとの大腸内視鏡検査を継続することで、大腸がんによる死亡リスクを大幅に低減できます。ぜひ、定期的な大腸がん検診を受けましょう！



図1 男女別 部位別罹患数年次推移

大腸がんは年齢が上がるにつれて発症率が増えます。特に50歳以上で顕著に増加しますが、最近では50歳未満での発症も世界的に増えつつあり、日本でも全大腸がん患者の

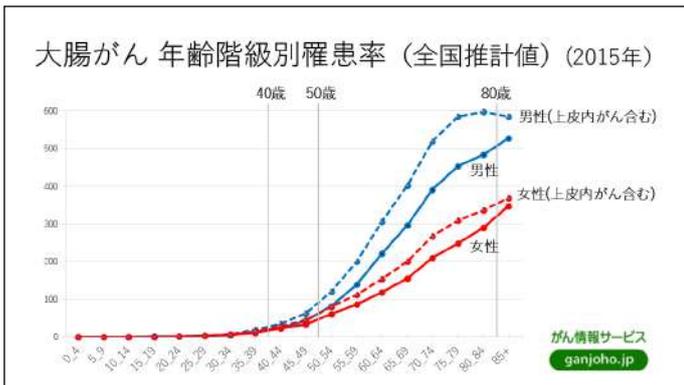


図2 年齢階級別罹患率

大腸がんで命を落とさないために

- 40歳以上では、毎年、便潜血検査(2日法)を受ける
- 便潜血検査で1回でも陽性なら、必ず大腸内視鏡検査を受ける
- 症状がある場合は、便潜血陰性でも大腸内視鏡検査を検討する
- 大腸がんのリスクが高い人は、便潜血検査の結果に関係なく3～5年ごとの大腸内視鏡検査を検討する
 - ・ ご家族に大腸がんの方がいる人
 - ・ 過去に大腸がん治療をうけたことがある人
 - ・ 大腸ポリープ(腺腫)を指摘されたことがある人



第34回 日本性機能学会東部総会

この度、私が大会長を務めた「第34回日本性機能学会東部総会」が、2025年2月15日、はまぎんホール「ヴィアマーレ」（横浜市西区みなとみらい）にて開催されました。日本性機能学会東部支部会員（北海道～長野県）84名が参加され、盛会の中終了しました。

メタボリック症候群生活習慣病の関連について研究してきたことから、がんをはじめとした様々な疾患や日常生活もまた性機能に関連すると考えます。性機能を守ることは生命予後を守ることにつながり、生き生きとした人生を歩むことにもつながることから、本学会のテーマを「性を守り、生を守る」としました。

ランチョンセミナー・イブニングセミナーを各1セッション、および東部総会賞応募演題・一般演題合わせて全14演題の発表がありました。招聘講演では大辻エマピクルス先生をお招きし、オストメイトのQOLについて自身のご経験も交えて講演を賜りました。大辻先生はオストメイトモデルとしてもご活躍されており、我々医療者でも思いが及ばない気付きを与えてくださいました。特別報告ではOCT医薬品・セルフメディケーションや陰茎プロステーシスの認可による世界標準に向けて問題点・利点を理事長の佐々木春明先生にご講演を賜りました。また3社が展示を出展してくださいました。

活発な討議によって相互の理解を深め、当学術大会が性機能医学の発展向上の一助になったと考えております。懇親会では横浜市泌尿器科医会会長鳥居毅先生にご挨拶を頂戴いたしました。

現在も人間ドック・健診センターで性機能とメタボリック症候群・生活習慣病、排尿機能に関する臨床研究を実施中です。今後も皆様のご協力を頂き、性機能医学・健康医学、アンチエイジング医学の発展に寄与していく所存です。

泌尿器科部長 石川 公庸



言語聴覚士（ST）主催の地域連携研修会（2回目）を開催しました

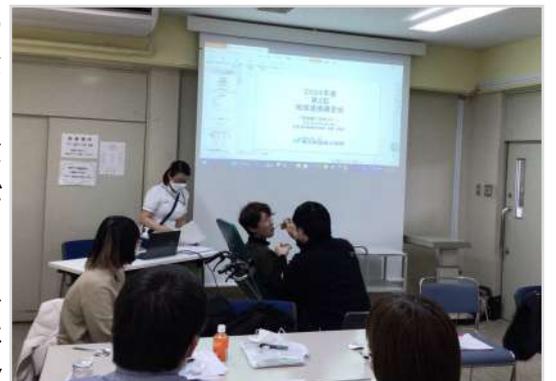
2025年2月20日『摂食嚥下患者様を知ろう！』と題した言語聴覚士（ST）主催の地域連携研修会（全2回）を近隣施設の職員の方々をお招きして行いました。

前回から引き続きご参加頂いた施設に加え、今回は更に2施設が加わりました。1回目のご意見をふまえて企画をブラッシュアップし、私達もワクワクしながら当日を迎えました。

内容は『誤嚥』『食事介助』『食形態』とし、座学と実習、グループディスカッションを行いました。『誤嚥』では誤嚥徴候についてお話ししました。「具体的に観察するポイントがわかってよかった」と感想を頂きました。“食事介助”では崩れた姿勢でゼリーを食べる実習を行い、食べにくさを実感して頂きました。当院管理栄養士が担当した“食形態”は好評で、補助食品の試食は特に盛り上がりました。

主催した私達にとっても多職種でディスカッションする中で介護施設の“現状”を拝聴し、共に考える事ができたことがとても貴重な時間となりました。そして当院が地域と連携をして患者さまに携わっていくことの大切さを改めて実感できた研修会でした。

今回の地域連携研修会は初の試みでしたが得られるものが多くあり、今後も継続していきたいと考えています。その際は是非ご参加をお待ちしております。



WEB版みんなの健康講座

※オンライン配信

病気や健康に関する情報を発信しています。Web版みんなの健康講座はホームページ、スマートフォン（QRコード）からいつでもご視聴いただけます。

